

2 学校関係者評価と学校評価のまとめ

学校評価の公表について (手段・時期等)	・ 2 学期末に、保護者あてに郵送した。 ・ 1 2 月下旬から、本校ホームページに掲載している。
-------------------------	--

領域	学校関係者評価の結果 (達成状況、結果の分析)	学校評価のまとめ
学校経営	(1) 安全・安心な学校 危機管理に関して、生徒が危険に注意をはらっていると考え、自分は注意をはらっていると考え、生徒の割合に相当の差がみられるのは、職員がよく考え、指導しているからでくる結果である。 生徒たちにあまり手をかけすぎても、自分たちのいのちを自分たちで守るという意識が育たない。 (2) 学校行事・部活動 文化祭に参加したが、確かに生徒たちが楽しそうに活動している姿がみられた。生徒の動きを職員がよく受け止めているように思う。しかし、それが数字に結びついていないようでもある。 (3) 情報発信 ホームページの更新はすばらしい。校長ブログも読んでいます。 (4) プリント等の配付・回収 高校における保護者からのアンケートの回収等は、小中学校と違い、大変なことだと考える。自己評価にもあるとおり、回収方法は検討の余地がある。 (5) 研修の充実 充実した研修会が行われていることがうかがえる。 (6) PTA活動 サポーター制度導入など、学校として前向きに取り組んでいる姿がみられる。	(1) 安全・安心な学校 施設・設備の管理保全のための定期的な安全点検は適切に行われている。 清掃活動やボランティア活動をとおして、生徒の意識を高揚させ、職員、生徒、保護者で環境美化に取り組んでいく。 情報モラル等を含めて、身の周りにある危険について、いろいろな機会をとおして、生徒に伝えていく必要がある。 (2) 学校行事・部活動 統合 2 年目、生徒の学校行事に対する取組は、1 年目に比較し、大きな変化がみられた。協力して、前向きに取り組むようになったのである。今後も、生徒が主体的に取り組み、自信をもち、楽しいと思えるように、職員が支援していく。 (3) 情報発信 ホームページや校長ブログをほぼ毎日更新することにより、学校のようなす保護者、地域、受検生等に向け、発信している。アクセス数は着実に増加傾向にある。学校だより、学年通信、図書館だより、保健室だより等、さまざまな形で保護者、地域に発信し、協力して生徒を育てていきたい。 (4) プリント等の配付・回収 職員の姿勢により、提出物の回収状況は大きく変わるものと考え。このあたりのことを全職員で共通理解をもちたい。 保護者用アンケートについては、封筒に入れて回収する方向で検討していく。これにより、正直な意見が書きやすくなると思われる。 (5) 研修の充実 職員参加型の充実した研修会が行われているものと自負している。次年度は、全員が参加できる木曜日の放課後の設定を考えている。研修テーマは次のとおりである。 教育相談、情報セキュリティ（モラル）、不祥事防止、学習指導・生徒指導、学校評価 (6) PTA活動 サポーター制度を導入し、保護者が教育活動に参加するようになりつつある。保護者が学校のことを、生徒のことを知らなければ、知る努力をしなければ、保護者からの適切な学校評価はなし得ない。
学習指導	(1) 学び直し 学び直しを実施してくれることは、中学校としてはありがたい。 (2) 授業形態の工夫 今後も、授業形態を工夫することを継続してほしい。 (3) 授業力の向上 東部地区の小中高校が連携して、授業公開していけば、職員の授業力向上につながる。 生徒の学力が向上しているととらえている職員が多い。今後は、客観的な数値を示す試みをしたらどうか。 「わかりやすい」の捉え方が、職員と生徒で開きがある。職員がどれだけ、生徒の方を向いていけるかが重要である。中学校では、授業での工夫を確認できるようなアンケートを実施し	(1) 学び直し 「学び直し」を展開していることに対して、保護者の理解は得られている。ただ単に、学び直しを行うのではなく、本校生徒に何を教えたのかを、各教科でさらに検討する必要がある。また、職員が、自分の教科だけではなく、学校として何を教え、卒業させていくのかの共通理解が必要である。 (2) 授業形態の工夫 教室の数や職員の人数の許す限り、授業形態を工夫し、生徒にとってわかる授業を展開していく。 (3) 授業力の向上 今年度同様、次年度も初任研や 5 年研等の研究授業をはじめ、公開授業を増やすことにより、互いの授業を見せ合い、評価し合うことにより、職員の授業力向上を図っていく。 進路指導部、教務部で、生徒の学力を客観的に測れるテスト等を吟味し、実施していく。 今年度、授業評価アンケートを取り入れたが、この在り方を次年度に向けて検討していく。

	ている。	
生徒指導	(1) 頭髪・服装等の指導 生徒に職員の想いが伝わるよう、継続して生徒に指導してほしい。 頭髪・服装については、落ち着いてきていると思うが、遅刻の指導を学校として厳しく行っしてほしい。時間を守るといことは、社会人としての第一歩である。 (2) 保護者と連携した指導 サポーター制度が機能してきていることがうかがえる。 (3) 教育相談体制の充実 教育相談は重要であるため、今後も充実した相談を続けてほしい。	(1) 頭髪・服装等の指導 本校職員は、ルール・マナーを守る指導、頭髪・服装等の指導等をしっかり行っていると考えており、保護者の理解も得られている。守るよう心がけている生徒も多い。しかし、遅刻や欠席を繰り返す特定の生徒への指導を、学校をあげて取り組む必要がある。 (2) 保護者と連携した指導 サポーター制度が機能してきていることがうかがえる。 (3) 教育相談体制の充実 教育相談は重要であるため、今後も充実した相談を続けてほしい。
キャリア教育	(1) 組織的・計画的な進路指導 しっかりとした進路計画にしたがって、指導しているのがわかる。 「充実している」とは、どのような状態をいうのがはっきりしないのではないかと。 職員が、生徒に向けて自分を語ることが大切である。また、生徒同士で進路について語らせることも重要である。 キャリア教育は、家庭の力が大きい。	(1) 組織的・計画的な進路指導 きめ細かな進路指導を展開しているところであるが、次年度に向けて、年間計画を検討し、松戸向陽高校ならではの進路指導を確立していく。 充実している状態とはどのようなものかをはっきりと示していく。 保護者に適正な学校評価を行っていただけるように、また、学校と連携して進路指導を行っていくよう、学校で行われている進路指導について、広く知らしめる努力をする。
その他	(1) 福祉マインドの育成 実にさまざまな活動をしていることがわかる。ボランティア活動は、さまざまな分野が考えられるので、今後も、生徒たちが積極的に関わりをもてるよう導いてほしい。 (2) 福祉教養科の充実 介護実習報告会をみても、福祉教養科生徒ががんばっていることがよくわかる。	(1) 福祉マインドの育成 ボランティア活動を充実させることは、福祉マインドを育成することにつながる。ボランティアセンターが機能し、普通科にもボランティア活動する生徒が広がりつつある。今後、普通科生徒にどれだけ広められるかが課題である。平成 25 年度入学生から、1 年次に学ぶ「社会福祉基礎」、「道徳」をうまく絡め、活用していく。 本校は、現在、さまざまな行事をおこなっているが、今後も、さらに生徒にとって魅力ある行事を企画し、実施することにより、福祉マインドを育成していく。 (2) 福祉教養科の充実 介護実習報告会をみても、福祉教養科生徒ががんばっていることがよくわかる。